

コラム 中野実メモの発見

二〇〇二年三月三十日に亡くなった中野実さんの手書きメモを、研究会の年報刊行にあたって紹介したいと思う。今回のメモは、東京大学史料室（安田講堂五階）に置かれてある「中野雑件ボックス」の一つに収められていた「森文政期の高等教育政策」と記入されたファイルの中から発見されたものである。

この中野メモ（日付：九八年九月三十日）は、ルーズリーフ用紙（B5判）にボールペンや鉛筆で記入されている。「国立大学 情報公開」などと一旦書いた文字を訂正したうえで、大学分校や大学予備門の修業年限について一八八五年九月案と十二月案とを比較し中野なりに構想したものと思われる。

中野の仮説では、森文政の高等教育政策は完結した政策構想ではなく、現場からの意見や意向を踏まえ試行されたものであるとした。今回のメモは、それを修業年限の点から模索したものであろう。次号以降も、このような中野の貴重なメモ類を紹介していきたい。（谷本宗生）

